



9月号

平成7年9月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

「先生ノ手をかして」
 差し出した腕に
 細く小さな手が重なる

一輪車にまたがり
 ペダルの足を

小刻みに動かしながら
 飛び出すタイミングを計る

握り締めた手に
 ぐいっと力が入る

瞬間
 ふわっと宙に舞い立ち
 光の中に踏み出す

太陽に向かって広げた両手の
 指先にまで力をみなぎらせ
 右、左、右

足が躍動する

額の汗がきらきらと輝き

白い歯が笑う

「先生ノできたよ」

〈一輪車〉



(ロングシュート—大樹寺小)

「理科離れ」あるいは「理工系離れ」が社会的に問題になってからしばらく経つ。高校での教科の履修率が急減して、青少年の物理・理工系への関心が薄れてきたのではないか。もしそうだとすれば、技術立国を指してきた我が国にとって重大問題ではないかと危惧される。

しかし、大学の理工系への志願者



が大幅に減ったということはなさそうだし、高校での理科全体（物理を含めて）の履修率は変わらないようなので、この問題は「理科離れ」というよりは、むしろ「学問離れ」と考えるべきではないかという意見がある。すなわち、文科系を含めて地味に研鑽を積むというか、主体的に興味を持ってこつこつと努力する

— 教育随想 —

理科離れについて



共同長
岡崎国立共
研究機 構長
竹内 郁夫

という価値観が失われてしまったのではないかというのである。このよきな努力は、学問に限らず、人間のすべての創造的活動の根源であるから、事実とすれば事態は深刻である。このような事態を招いた原因として、いくつかの社会的要因が考えられる。自分でじっくり考えるよりは、速く答を出すことを要求されるとい

う受験教育もその一因であろう。しかし、もっと大きな原因は、日本の戦後社会の在り方に関係していると思われる。周知のように、戦後の日本はどんな底から立ち上がって先進国に追い付き追い越せと励み、今や有数の経済大国となった。その間の高度成長期において、ひたすら求められたもの

は効率化であった。効率化が強くとめられる社会にあつては、個々の人間に十分注意をはらうことができない。個人はそれぞれの顔立ちが異なるように、その意志・嗜好・才能においてきわめて多様である。それを一つの指標（例えば偏差値）で測ろうとすることは不可能である。

これからの日本にとってはもはやお手本はなく、自らの進むべき道を模索しながら進んでいかなければならないと言われている。このような社会にあつて、求められるものは多様な人材である。そのような意味でも、個人の意志と嗜好が尊重されるような教育が必要であろう。

もう一つ多様化してほしいのは、個人の学歴・経歴である。外国では、大学や大学院で歴史学を専攻して経営者になったり、数学を専攻して大使になったりという人がたくさんいる。また、大学で修士を取得した後会社に就職し、四十歳ぐらいになってから博士課程に進学してきた人もいる。これに比べて日本の社会は単線型で、そのことが社会の柔軟性の欠如につながっているように思われるからである。

（たけうち いくお）



しつけは家庭環境から

恵田小学校長

松井 幸彦

恵田小学校へ勤務して、二つの嬉しいことに出会った。

一つは、私が毎朝登校する途中、二年生のK子さんと六年生のS君が、いつもここにこした笑顔で、「校長先生おはようございます。」と深々と頭を下げ挨拶してくれることである。その姿が実に丁寧で、何と申すがすがしい気持ちになる。私も「おはよう、がんばろうね。」と、車の窓を開け、声をかける。

いま一つは、放課中に運動場へ行くと六年生から一年生までが一緒にになってサッカーをしている。一年生の子らも、自分のポジションを自信ありげに真剣に守っている。時々、五・六年生の子が、「一・二年生に、「こう蹴るんだよ。」「このように守るんだよ。」と具体的に教えている。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



エアロビクス世界一

佐藤 寿樹 氏

先ごろ、世界二十二か国が参加して、一九九五年のエアロビクスのワールドカップが開催された。その大会のトリプル部門で優勝を果たしたのは、岡崎出身の佐藤寿樹さんである。

矢作中学で野球、高校から大学までサッカーをしておられたという佐藤さんは、エアロビクスとの出会いを次のように語られた。

「大学のサッカー部は部員が三百人を越え、レギュラーを取るのが難しかったんです。そこで、トライアスロンに転向をして、冬場のト

レーニングの一つとしてエアロビクスをやったんです。実はそのとき、エアロビクスは女性のするスポーツだと甘く考えていたんですね。ところが、体力には自信があったのに、最後まで続きませんでした。それが悔しくて、エアロビクスにのめり込んだんですね。」

エアロビクスを始めて八年。現在は、インストラクターとして豊田や蒲郡で教える一方、競技者としてトレーニングを続けておられる佐藤さんは、

「私にとつてのエアロビクスは、肉体を極限まで絞り込んでいく中で自分を高めていくことができるのです。つまり、社会人としては普段の生活ではなかなか味わうことのできない精神状態が得られることが喜びなんです。」

と、言われた。

競技者として頂点を極められた佐藤さん。指導者として、また、競技者としての今後の抱負を語っていた。

「指導者としては、初級・中級者の育成をすること。それぞれのクラスの人がステップアップしていく手助けをすること。そして、競う場としてではなく、発表の場を設

けることが目標ですね。また、協会としては、国体種目に採用されることを目標に働きかけをしています。それから、競技者としてはやっぱり、男子シングル部門で優勝することが最終の目標です。」

佐藤さんは柔軟な体について、「訓練すれば誰でもできますよ。」と、事も無げにおっしゃった。実際佐藤さんもエアロビクスを始めたころは、体が硬く、体前屈などは、マインスだったそうである。

氏名 さとう ひさき
 生年月日 昭和四十年二月十二日
 住所 上里三丁目三二二



一・二年生は、真剣に聞きながら試合を続けている。教える子も教えられる子も共に信頼関係があり、何も言えないほほえましい姿なのである。

母親が「朝会つたら、誰にでも挨拶するんですよ。」「何かいたいだいたら、必ずお礼を言うんですよ。」と、いつも我が子のしつけに心を砕いているかに見える。しかし、実際は、子供に口やかましく言うわりには、朝起きても父親に「おはようございます。」を言わないし、人から物をいただく、先ず値踏みをするような若い母親が最近多いようである。

子供は、家庭でそれをしっかりと見抜いている。親の言うようにはならないが、するようになるものである。子供のころ覚えた自転車乗り、鉄棒の前回り、平泳ぎなどが大人になってもできるように、自分の体で覚えたことは、一生忘れずに身につけている。

母親が、言葉で「おはようございますを言いなさい。」と言っても、身につかない。しかし、両親が毎朝、笑顔で「おはよう。」を交し合えば、子供は必ずできる。

しつけは家庭環境の中で、自然に育てられるものである。

庶民が憩う 今、銭湯は



かつて、銭湯は社交の場であった。「うちの息子が今度結婚する」とか、「隣の家が改装される」とか、銭湯に行けばいろいろな情報が入ってきた。そして、見知らぬ人でも気軽に声をかけてくれる温かさがあった。また、子供たちをしつける場でもあった。掛け湯をしてから湯ぶねに入るとか、タオルを湯ぶねに入れないとか。子供たちは周りの人のことを考えて行動することを自然に覚えた。しかし、内風呂の普及で銭湯を利用する人は年々減り、銭湯はいつしかその役割を果たせなくなった。銭湯の始まりは鎌倉時代だと言われているが、庶民の暮らしの中に多く現れてきたのは江戸時代である。銭湯には古き良き時代が残る。「貫目」の表示のある体重計、広告のついた脱衣箱、招き猫の置物など。もしかしたら私たちは、大切なものを簾かごの中に置き忘れてきたのかもしれない。

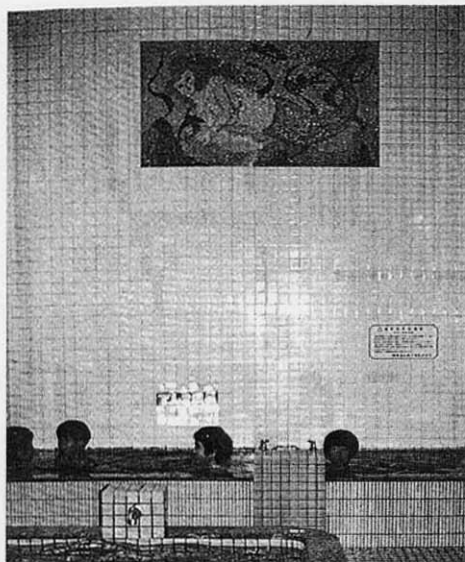
現在、岡崎には十二軒の銭湯がある。一番古いものは、大正十一年の創業と聞く。昭和四十年代に三十軒以上あった銭湯は、今では三分の一に減った。ここ数年のうちにはもっと減ってしまうかもしれない。寂しい限りである。



▲常連さんの洗面用具

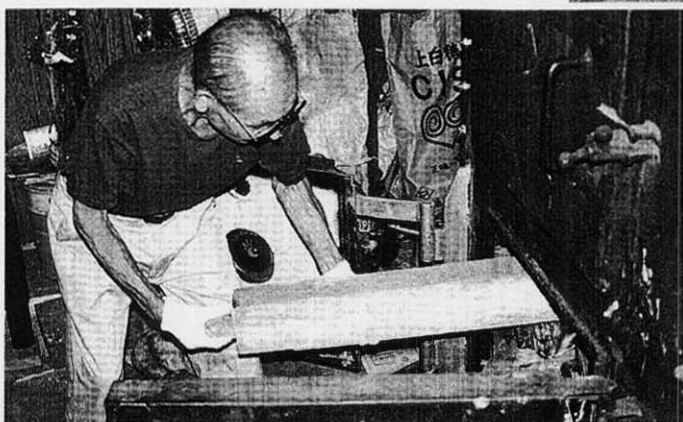
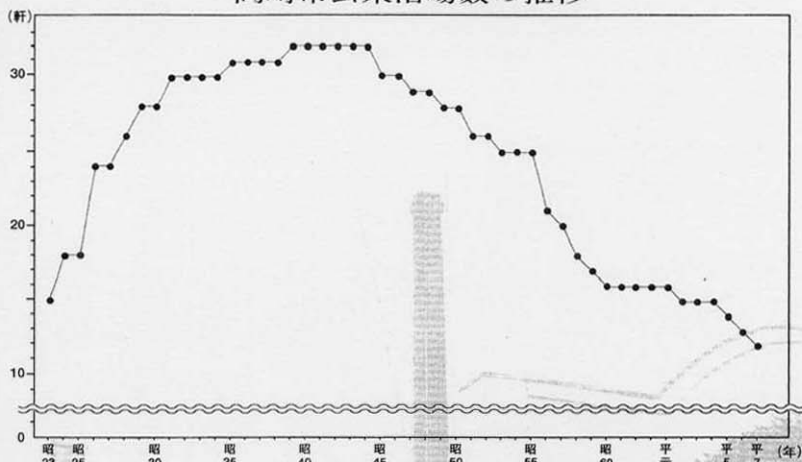


▲時代を思わせる脱衣箱

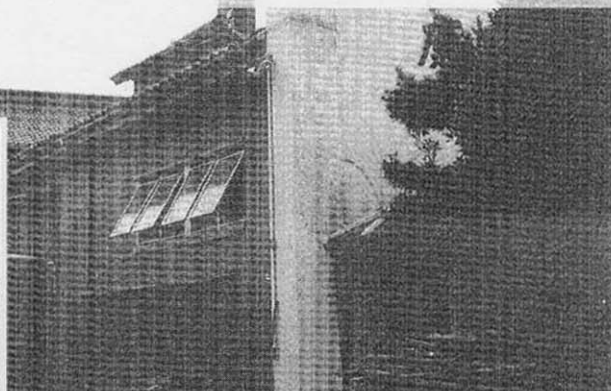


▲湯につかる子供たち

岡崎市公衆浴場数の推移



▲廃材を利用したボイラー



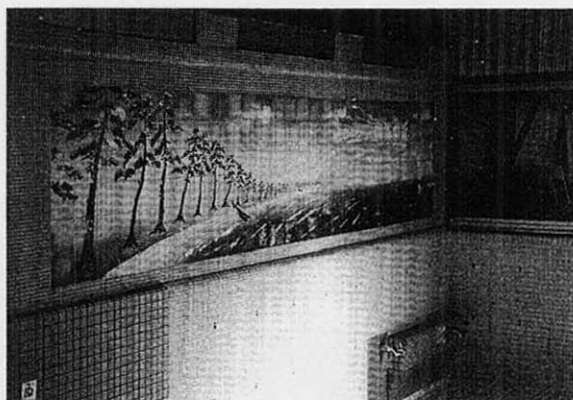
入浴料金 一岡崎市内一

改訂年月日	大人	小人
S.38.10.16	21円	
S.40. 9.20	28円	
S.43. 4	32円	
S.45. 1	35円	
S.46. 8.23	40円	
S.47. 9.25	45円	
S.48. 8.22	55円	
S.49. 1.30	60円	
S.49. 7.27	80円	
S.51. 3.29	100円(110円)	
S.52. 7. 1	130円	
S.54. 7. 1	150円	
S.55. 4. 5	180円	
S.57. 6	200円	
S.60. 6.24	210円(240円)	
S.63. 6.22	240円(270円)	
H.元. 6.21	250円(280円)	
H. 2. 6	260円(290円)	
H. 3. 6.26	270円(300円)	
H. 4. 6.22	280円(310円)	
H. 5. 6.23	290円(320円)	
H. 7. 6. 9	300円(340円)	

() 内は、愛知県の料金



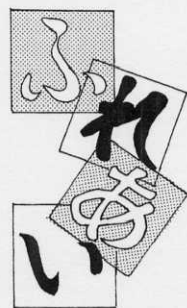
▲変らぬ番台風景



▲大正時代に作られたタイル画



▲今も使われている籐かご



笑い声はパスポート

パリ日本人学校

荻須 文裕

日本人学校の生徒が折って
いく鶴を、なんとかまねてみ
ようとするフランスの生徒た
ち。今日は、国際交流の一環
として実施している現地校訪
問の日である。

中学部二年は、第二外国語
として日本語コースをもつて
いるリセ・セツト高校を訪問
した。

我々のバスが着くと、玄関
には数十名の生徒が待ち受け
て歓迎してくれた。日本人学
校の生徒たちよりもはるかに
大人びたフランスの高校生に
囲まれる。最初は遠慮がちだ
った生徒たちも、グループご
とに校内を案内されるうちに
緊張がほぐれてくる。

この日、生徒たちは日本語
化を紹介しようと、折り紙や

けん玉、そして、いろはがる
たを用意していた。日本語コ
ースを選択している生徒とは
いえ、初めからコミュニケーション
ションがうまく図れるわけ
はない。お互いたどたどしく
やりとりしているうちに、や
つと元気のよい笑い声が沸き
上がるようになった。

中でも、折り紙はフランス
人に人気が高い。日本人学校
の生徒たちが折る鶴を、見よ
う見まねで折っていく。それ
でも最後には、どこことなく曲
がった鶴ができあがる。あち
らこちらから「トレ・ピアノ
(すてきー)」の歓声。笑顔は
世界共通なのである。



師弟 同行

教師の姿

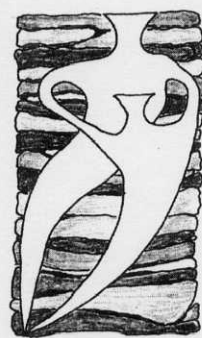
葵中学校教諭

高木 和広

容姿端麗という言葉がその
ままたまはまるような先生で
した。子供の前に立つ時は、
絶えず身だしなみを整えられ、
笑顔で接しておられました。

先生の健康的な笑顔は学級を
和やかな雰囲気にし、多感な
小学校時代を楽しく過ごさせ
ていただくものとなりました。
いま思うと、先生自身にも
さまざまな悩みがあったと思
われるのに、決してそれを出
されませんでした。

一方、ずいぶん厳しい面にも
出会いました。忘れた宿題
はできるまで許していただけ
ませんでしたが、むろん忘れ
物もおいそれとできませんで
した。やるべきことは必ずや
り通させるといのが、先生
の方針でした。優しさと厳し



さを見事に使い分けられてい
たように思われます。

先生に担任していただいた
二年間は、私の教育活動の大
きな支えとなつています。子
供の目で見えた先生の颯爽とし
た姿は、教師として大切な素
養であり、子供は「教師の姿」
に憧れるものだと思います。

そう言えば、二十数年前、
私が豊田から岡崎に転勤した
際、先生は笑顔で迎えてくだ
さいました。それは子供の時
に出会った笑顔と同じでした。

芯のある粘り強さ

元六ツ美南部小学校教諭

吉見 和子

三十五年前にタイムスリッ
プしたように、あなたの姿が
浮かんできます。

当時のあなたは、誰にでも
優しく親切で、親しみがあ
り、それでいて芯の強さを持ち合

わせていました。

教師になられてからは、社
会科はもちろん、青年部の常
任として目を見張る活躍ぶり
でした。私自身も婦人部を担
当しており、あのころ、互い
に勉強させていただいたのを
覚えていきます。

また、美川中学校へ行かれ
てからは、視聴覚教育に没頭
し、立派な研究発表をされま
した。その上、全国学校放送
教育賞論文でNHK会長賞を
授与されたのを初め、多くの
賞を得るとともに、多大な功
績をあげられました。また、
指導員として岡崎の視聴覚教
育の推進に尽力され、その活
躍ぶりはまばゆいばかりでし
た。専門外のことゆえ、どん
なにか苦労も多かろうと推察
していましたが、どれも取り
越し苦労ばかりでした。

子供のころから、「懸命さ」
と「芯の強さ」では抜きんで
ていました。あなたが育てる
子供たちもそんな強さを持ち
合わせていくでしょう。

これからもあなたの活躍に
大きな拍手を送っていきます。

お知らせ



◆第十五回全日本バレーボール小学生大会愛知県大会

優勝 男子 矢作北小
女子 上地小

両チームは、八月十一日からの全国大会に出場。

◆第九回岡崎市中学生の主張コンクール

優秀賞

常磐中 三年 生田 裕也

北中 三年 鈴木まゆみ

六ツ美中 三年 飯見由貴子

附属中 三年 清水万由子

◆ヤングライスクッキングコンテスト

愛知県知事賞

葵中 二年 岡田 達明

愛知食糧事務所長賞

葵中 三年 福沢 良美

平成7年度岡崎市小学校体育大会

種目	優勝	2位	3位
ソフトボール	男 矢作北 女 矢作南	羽根 連尺	矢作東 北野 上地
バレーボール	男 矢作北 女 上地	六ツ美南 井田	本宿 梅園 本宿
バスケットボール	男 連尺 女 愛宕	三高 三名	竜美丘 小豆坂
サッカー	男 上地 女 大門	福岡 矢作南	井田 北野
水泳競技	北ブロック	男 大広 女 小豆坂	矢作東 矢作西
	南ブロック	男 小豆坂 女 川	羽根 緑丘 竜美丘

第48回岡崎市中学校市長杯総合体育大会

種目	優勝	2位	3位
陸上競技	男 矢作北 女 矢作北	六ツ美北 竜南	常磐 矢作
バスケットボール	男 竜海 女 矢作北	葵 城北	幸田北 竜南
バレーボール	男 矢作北 女 城北	矢作 竜海	六ツ美北 常磐
ソフトテニス	男 幸田南 女 常磐	幸田北 幸田南	幸田 竜海
卓球	男 常磐 女 甲山	幸田南 幸田南	六ツ美北 矢作北
体操	男 竜海 女 東海	竜海 竜海	矢作北 南
新体操	男 矢作 女 六ツ美北	幸田北 幸田南	額田 六ツ美北
剣道	男 幸田北 女 幸田北	矢作 竜南	六ツ美 城北
ハンドボール	男 美川 女 幸田	新香山 矢作北	葵 甲山
軟式野球	男 幸田 女 幸田	幸田北 幸田北	矢作 竜海
ソフトボール	男 竜南 女 新香山	六ツ美北 六ツ美北	竜海 甲山
サッカー	男 矢作 女 城北	竜海 甲山	矢作北 矢作
水泳	男 矢作 女 城北	竜海 甲山	矢作北 矢作

岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

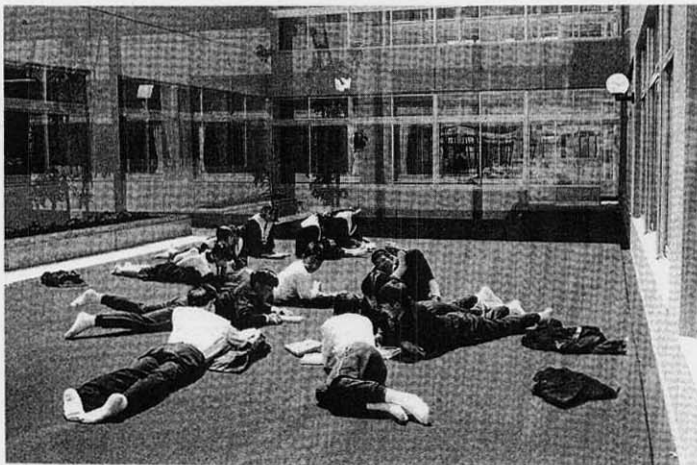
成績	男子総合	女子総合	男女総合
優勝	矢作北	矢作北	矢作北
2位	竜海	矢作	矢作
3位	矢作	南	竜海
4位	六ツ美北	六ツ美北	六ツ美北
5位	葵	竜海	南
6位	竜南	甲山	甲山

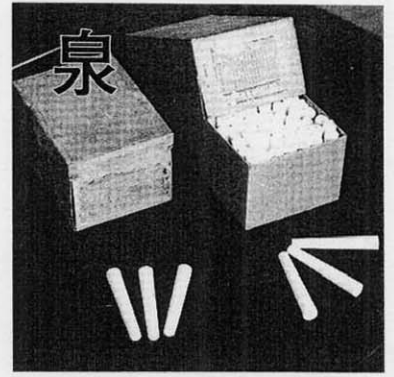
米消費拡大事業推進協議会長賞
葵中 三年 治郎丸 藍
愛知県米穀協会会長賞
葵中 三年 鈴木 美江
愛知県幹事校長賞
葵中 三年 豊永亜紀子
◆愛知県吹奏楽コンクール西三河地区大会
金賞
大編成の部 葵中
小編成の部 美川中
南中
六ツ美北中
矢作中

◆西三河中学校選手権大会
優勝
水泳競技
男子 矢作・女子 城北
ソフトボール 女子 矢作
ハンドボール 女子 美川
ソフトテニス 女子 福岡
バレーボール
男子 六ツ美・女子 矢作北
バスケットボール
男子 竜海
体操
男子 甲山・女子 竜海
男子 東海



図書室に隣接した吹き抜けの人工芝の広場。読書・語り・遊びに子供たちがくつろげる最適の場である。





小豆坂小蔵

チョーク(白墨)

「旧態依然」と、悪口を言われる学校現場で、象徴的なのがチョーク(白墨)である。だが、このチョークこそ百年を超える学校現場で教師の想いを子供に伝える最大の功労者であったことを忘れないでほしい。

ここに登場したチョークは、昭和初期のものである。赤茶けた箱に「聖筆(あひつ)」とある。「聖」は白土の意味がある。白い土の筆と解釈したのでだろうか。ちなみにチョークは白亜ともいい、白亜紀層の炭酸カルシウムを多く含んだ泥炭岩を指す。当時は、

焼石膏と炭酸カルシウムを泥状に混ぜ、真鍮製の鋳型に流し込んだという。形も円錐台形である。現在は焼石膏のみで作られ、粒子も均質で、粉末の飛散が少なく円筒形である。ただ製造過程は今も昔もほとんど変わらない。

チョークの生産は最盛期に比べて六十%程度に落ちていく。減少の理由はコピーやOHP等の普及により、黒板に書いて教える教師が減ってきたからだという。OA化が叫ばれる中で、チョークはどんな生き方をしていくのだろうか。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

大樹寺小
大樹寺小
城北中

市橋章男
稲垣英代
野村光

この本を

- *いじめと妬み 土居 健郎・渡部 昇一
PHP研究所 ￥1000
- *豆腐の如く 斎藤 茂太
俊成出版社 ￥1300
- *歴史はどう教えられているか 中村 哲
日本放送出版協会 ￥900
- *自分らしく、したたかに 三好 京三
小学館 ￥1300

- *木村伊兵衛と土門拳 三島 靖
平凡社 ￥1800

写真家としてのお二人の知名度は高い。その個性は、それぞれが写真にその時代を刻みつけて、イメージの蓄積力に好対照をみせる。

「被写体を周囲の雰囲気ごと金魚すくいのようにつかまえる」木村氏。「これと決めた瞬間を鈍器で殴りつけて強引に制止させたかのようにとる」土門氏。

近代写真史を切り開いた二人の足跡を、写真と言行録にたどるとき、その生涯は昭和時代の回想と重なり感慨をさそう。

重さ六グラム、長さ八センチに託された教師の想いは大きい。チョークは長い間、子供たちの熱い視線を一身に浴びてきた。そして黒板に浮き出た美しい線、豊かな板書は同僚の羨望の的ともなった。

白く染まった指先は、教師の一日の仕事の証でもあった。



華やかさとは、地道なことの積み重ねだと改めて感じた。

「写真が勝負。でもプライバシーに気をつけて。」
と、難題を出されて銭湯に走った。度重なる取材に快く応じてもらえた康乃湯さん。貴重なデータを早速提供してもらえた愛知県公衆浴場組合の皆さん。銭湯の取材は心の奥までホットにさせてくれた。

捨団扇が夏の終わりを告げる。団扇一つに日本の風情が極まる。扇風機やクーラーではこうはいかないだろう。古人の感性にただただ脱帽するばかりである。

厳しい残暑の中で、いよいよ二学期が始まる。